



北上の子

北上小の合い言葉(三つの心) おもう心 むかう心 のびる心

令和6年度の始まり

校長 皆川 尚之

今年も、桜の花が満開を迎え、美しい風景が見られています。春を感じられるこの環境の中で、また共に歩めることを幸せに思います。保護者の皆様、本年度も本校の教育活動に御理解と御協力よろしくお願ひいたします。

令和6年とは平成36年、昭和でいうと99年に相当します。将来の予測が困難な時代において「正解」を持ち合わせていない現在、学校は何を目指すのか考えてきました。

今から50数年前も昔、次のような「三百六十五歩のマーチ」という歌が誕生しました。

しあわせは 歩いてこない だから歩いて ゆくんだね 一日一歩 三日で三歩 三歩進んで 二歩さがる 人生は ワン ツー パンチ 汗かき ベそかき 歩こうよ あなたのつけた 足あとにや きれいな花が咲くでしょう	しあわせの 扉はせまい だからしゃがんで 通るのね 百日百歩 千日千歩 ままになる日も ならぬ日も 人生は ワン ツー パンチ あしたのあしたは またあした あなたはいつも 新しい 希望の虹を だいている	しあわせの 隣にいても わからない日も あるんだね 一年 三百六十五日 一歩ちがいで にがしても 人生は ワン ツー パンチ 歩みを止めずに 夢みよう 千里の道も 一歩から はじまることを 信じよう
--	---	--

幸せは向こうからやって来ないから、こちらから幸せに向かって一歩ずつ着実に歩いていこう、といった内容の歌詞(作詞 星野哲郎)です。

本校では、これまで「心ある子」の育成を目指してきました。

「おもう心」=温かい心(人の力になりたい)

「むかう心」=いどむ心(学びたい 挑戦したい)

「のびる心」=成長しようとする心(自らを高めたい)

改めてなぜこれらの心の育成を目指してきたのかを考えたとき、一人一人の幸せにつながるからです。この幸せとは、一時的な楽しみではなく、持続的な幸福感(充実感)です。これは「ウェルビーイング」という言葉で表されます。

本年度北上小は、向こうからはやって来ない幸せを目指します。「三つの心」を育てるということはそのための教育活動であると捉え直します。目指す幸せ(=ウェルビーイングの実現)とは、例えば以下のようなものです。

- ：多様な他者とのつながりを持ち、他人に感謝したり、親切にしたりするなかで生まれる幸福感
- ：前向きに物事をとらえ、細かいことを気にしないで物事に挑んでいくなかで生まれる幸福感
- ：目指すべき目標を持ち、目標を達成していくことで生まれる幸福感
- ：自分の考えを持ち、自分らしさを存分に発揮していくなかで生まれる幸福感

始業式と入学式

入学式では、1年生58名が新たに「北上っ子」の仲間入りをしました。緊張した中で笑顔も見られました。北上小学校の仲間は、昨年と同じ354名でのスタートとなりました。

始業式では、各学年の5名が新年度の決意を発表しました。友だちを増やす、積極的に下級生をリードする、漢字の勉強を頑張るなどが堂々と語られました。「新たな仲間との出会い」「担任との出会い」を大切にして、進級したそれぞれの学年で「新たな自分と出会う」ようにしてほしいと思います。